

進路指導の取り組みの中から 「ようこそ先輩！」の取り組み

毎年、進路学習の一環として行っている「ようこそ先輩」の取り組みである。この授業は、年間行われる「体験実習事前・事後学習」や「卒業後の生活」などの学習とともに行われる。この学習と体験実習、体験入所、職場実習、施設実習などの取り組みが高等部の進路指導の中心となる内容である。

1 はじめに

向日が丘支援学校を卒業した先輩から、職場での様子や卒業までに身につけておくべき力、後輩へのエールなどを聞く場として、「ようこそ！先輩」の学習を年1回取り組んで、今年で6年目になります。

卒業後に就労継続B型事業所*1や就労移行支援事業所*2、障害者高等技術専門学校や専門学校、就職を目指している生徒を対象にしています。また、高等部の保護者にも案内を出して参観してもらいました。高等部の生徒が、自分の進路を考えるひとつの機会として、大事に考えています。

時期としては、1年生が初めて実習に行く前であり、2年生は3月の進路相談Ⅰを控えて実習に臨む前、3年生はいよいよ進路が決まり、社会に出る不安が始まる12月に実施するのが適切ではないかと思っています。

働くことがどういうことなのかというイメージを持つことが、1年生では一つの目標になります。就労をみざす生徒たちの多くは、地域の中学校から入学してきます。中学校でも、「体験学習」で地域の企業などで1～2日体験実習をしているので、生徒たちは、見通しは持てるようです。ただ、実習を通して「自分のできること」「苦手なこと」などを知ることが目的にしているため、中学校での取り組みとは違ってきます。また、先方からも評価表で評価をしていただき、自分が今後がんばらないといけない力についても考えていく場となります。

2年生、3年生では、実習を経験しているので、意識も少

し変わってきます。

「仕事の楽しさやしんどさ」「卒業までにつけたい力」「進路を考えるうえで、自分に足りないところや卒業までに身につけたい力」について、生徒たちが考える場となっています。

2 今までの取り組み(平成20年度～)

第一回は「お香を作る工場」(一般企業)で働いているA君でした。職場の上司の方と一緒に来校し、「卒業までに自分の進路をしっかりと考えて下さい。」と伝えてくれ、自分の進路を見つけることの大変さと大切さを語ってくれました。

二回目は「ミドリ電化(当時)」(一般企業)で働くB君でした。「体育館の後ろで授業をさぼったときもありました。」と、ドキッとする内容もありましたが、「テレビの販売台数で一番になり、店長から金一封をもらった時はうれしかったです。」と、会社に入ってから一生懸命頑張った姿を披露してくれました。

三回目は、「就労継続B型」事業所で働く5人の先輩たちでした。多機能事業所のために「就労継続A型」も併設され、そこから一般就労された方もおられました。そのことが励みになっているとのことで、「僕も今の仕事を頑張ってお〇〇先輩のように早く就職しようと頑張っています。」と、目標を持つことが大切であると熱く語ってくれました。

四回目は、「養護老人ホーム」で介護の仕事に励んでいるCさんでした。介護福祉士の資格を取るために専門学校

へ3年間通ったこと、次の日が泊まりの時は前の日に「泊まり勤務」に支障がないように過ごすことが大切なこと、お年寄りからの「ありがとう」が一番うれしいことなどを話してくれました。

五回目は、「手作り石鹸」の会社(一般企業)で働くD君でした。当日は、D君と一緒に会社の人も全員参加され、高等部生に石鹸作りを教えていただきました。障害の重いクラスの生徒にも取り組める内容で、みんなでD君の働きぶりを体験することができました。「もっともっといろんなことを身につけ、この仕事はDに任せられる、と言われるようになりたい。」と胸を張って話してくれました。

六回目は、郵便局で働くEさんとF君でした。卒業を控える3年生から、「不安な気持ちはありましたか？ どうしたら不安が無くなりましたか？」という質問があり、二人は「今でも不安です。仕事がしっかりできているかと考えると、いつになっても不安はあります。でも、周りの方が支えてくれるので、頑張っています。」と答えてくれました。「遅刻をしない」「体力が大事」と自分を振り返って話してくれました。

3 取り組みの流れ

「ようこそ先輩！」の勉強は、進路学習のひとつとして取り組んでいます。

当日の授業を実施するまでには、以下の手順で進めています。

①誰に来てもらうかを決める。

- ・生徒の実態を踏まえて、どの事業所がよいのかを教職員の意見を参考にして決める。

②会社や事業所をお願いに行く。

- ・会社や事業所の上司の方に「ようこそ先輩！」の学習の趣旨等を説明し、協力をお願いをする。前年度までの内容も具体的に伝える。
- ・そこで働く卒業生にも説明をし、了解を得る。
- ・卒業生の保護者に連絡し、協力をお願いする。

③日程調整をする。(保護者にも案内を出し、参観希望を募る。)

④事前指導をする。

- ・当時までに2回ほど、卒業生に学校へ来ていただき、当日話してもらった原稿と一緒に作成する。
- ・実際に読み合わせをし、不安がないように準備する。
- ・上司の方も来ていただける場合には、話の中身や、質問事項でのやり取りの内容を事前に文書でお願いしておく。

⑤「ようこそ先輩！」の授業

- ・学習の目標の確認
 - ・先輩の紹介
 - ・先輩からの話
 - 仕事の内容
 - 仕事で楽しいと感じること
 - しんどいと感じること
 - 困ったときの解決の仕方
 - 休日の過ごし方
 - 給与について
 - 学校時代の思い出
 - どんなふうに分の進路を決めたのか
 - 卒業までに身につけておけばいいこと
 - その他
 - ・上司の方の話
 - 先輩の仕事ぶり
 - 気をつけていること
 - 仕事をわかりやすく伝える工夫
 - 職場の方々の感想
 - 卒業までに身につけておく力
 - ・質疑応答
 - ・感想文
- #### ⑥会社・事業所へお礼
- 感想文のまとめを持ってお礼に伺う。

4 まとめ

普段教室でも、教員から話をする内容と同じ部分も多いのですが、実際先輩からの話は、興味津々なまなざしで聞く生徒たちの姿が印象的です。一足早く社会に出た先輩の姿から、「働くために必要なこと」を知ること、「目指す先輩像」が必要であることを感じる取り組みでもあります。

また、学校でできていないことは社会に出てもできない。だから、今、自分の課題に気づき、学校生活の中でがんばってほしいと願う取り組みです。



<参照>

- *1 「障害者総合支援法」の「自立支援給付」の中の「訓練等給付」の事業のひとつです。一般企業での雇用が困難な者、一定の年齢に達している者等に対し、一定の賃金水準の下で、就労や生産活動の機会を提供し、知識・能力の向上・維持を図る等の支援を行います。（雇用契約は結びません。）特別支援学校卒業後すぐに利用する場合は、在学中に就労移行支援事業所による就労アセスメントを受ける必要があります。
- *2 「障害者総合支援法」の「自立支援給付」の中の「訓練等給付」の事業のひとつです。一般就労を希望する障害者に対し、有期限の支援計画に基づき、知識・能力の向上、実習、職場探し等を通じ、適性に合った職場への就労・定着を図る支援を行います。

